

2023年3月期 第2四半期決算説明会

2022年12月5日

高松機械工業株式会社(証券コード：6155)

TAKAMAZ

目次

1

第2四半期連結決算内容

2

事業戦略

(参考) 会社概要

当資料は、作成時点において一般的に認識されている経済・社会等の情勢及び当社が合理的に判断した一定の前提に基づいております。記載内容は、新型コロナウイルス感染症の影響をはじめとした経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更する可能性があります。ご承知おきいただきますようお願いいたします。

1

第 2 四半期連結決算内容

第2四半期連結累計決算状況

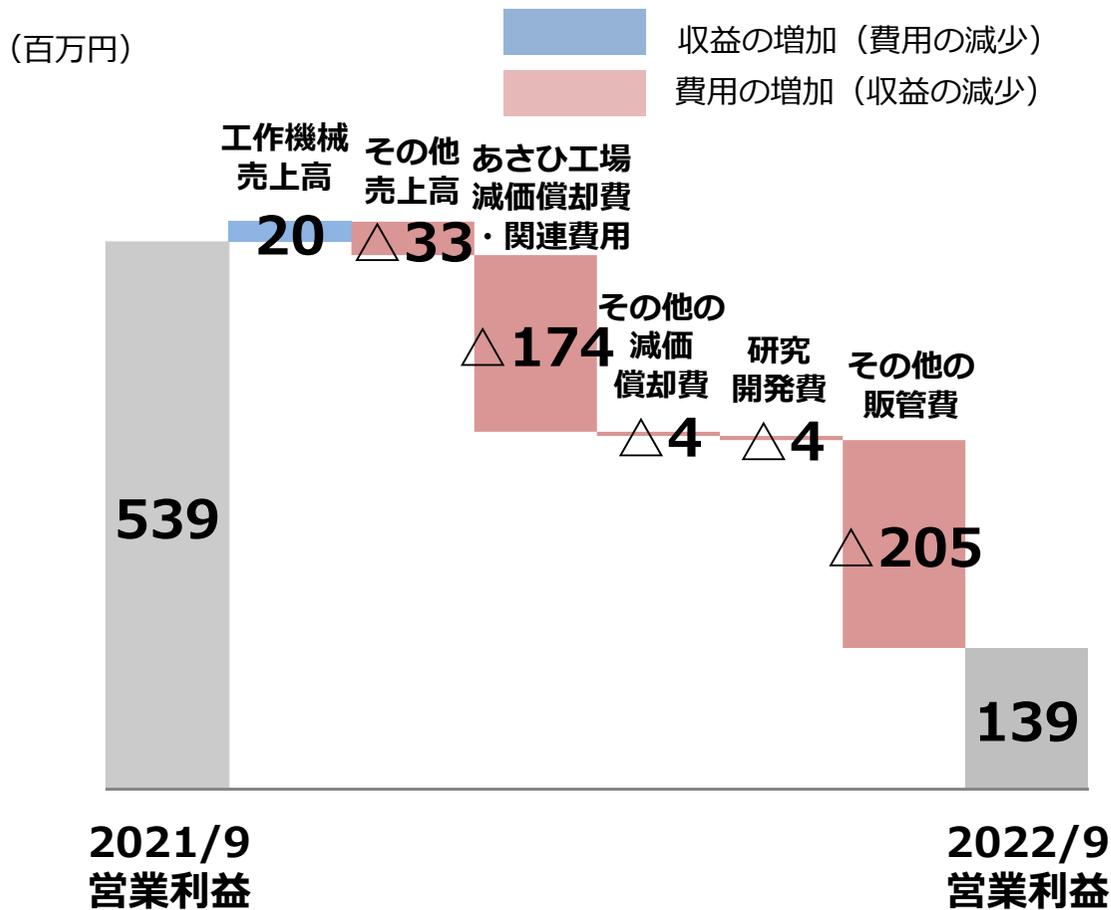
(単位：百万円)

	2021/9		2022/9		対前年同期比	
	金額	構成比 (%)	金額	構成比 (%)	増減	比率 (%)
受注高	6,503	-	7,000	-	+ 496	+ 7.6
売上高	8,009	100.0	7,474	100.0	△ 535	△ 6.7
売上原価	5,922	73.9	5,497	73.6	△ 424	△ 7.2
売上総利益	2,087	26.1	1,976	26.4	△ 110	△ 5.3
販管費	1,547	19.3	1,836	24.6	+ 289	+ 18.7
営業利益	539	6.7	139	1.9	△ 400	△ 74.1
経常利益	571	7.1	227	3.0	△ 343	△ 60.1
親会社株主に帰属する 四半期純利益	393	4.9	144	1.9	△ 248	△ 63.2

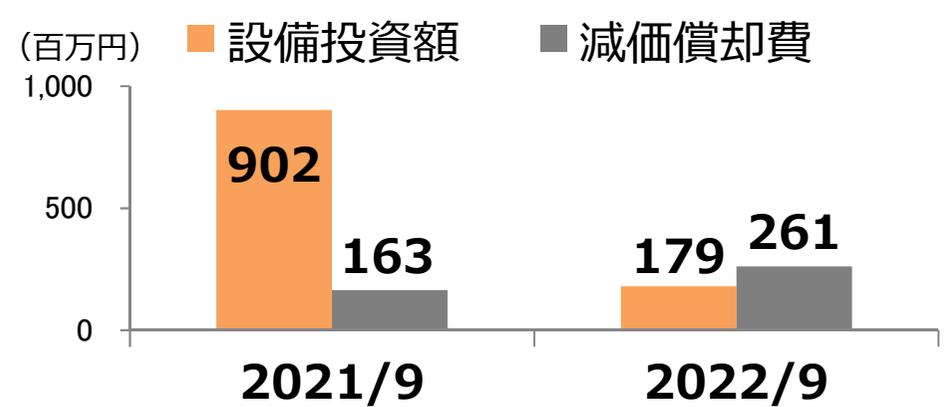
- ✓ 不透明な経済状況が続くものの、工作機械業界では、国内・海外ともに活発な設備投資の動きが見られ、需要の回復基調が継続
- ✓ 日本工作機械工業会は、2022年暦年の業界受注総額見通しを1兆6,500億円から1兆7,500億円に引き上げ（前年同期比+13.5%）
- ✓ 部品調達難や原材料価格高騰の影響が続き、売上・利益ともに減少

連結累計決算状況

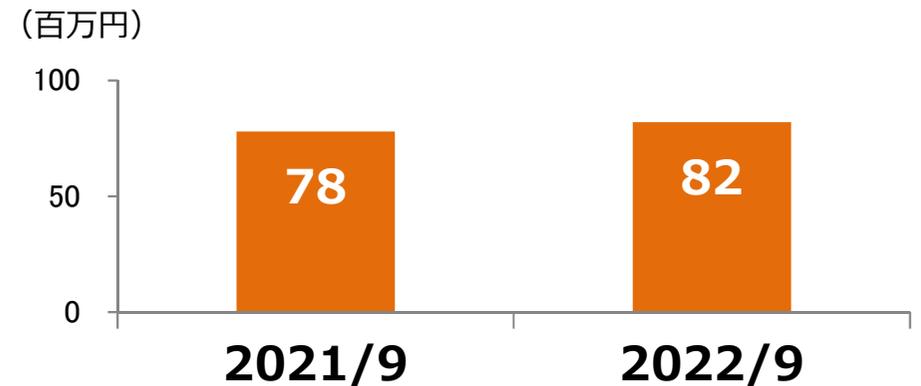
営業利益増減分析



設備投資額・減価償却費



研究開発費

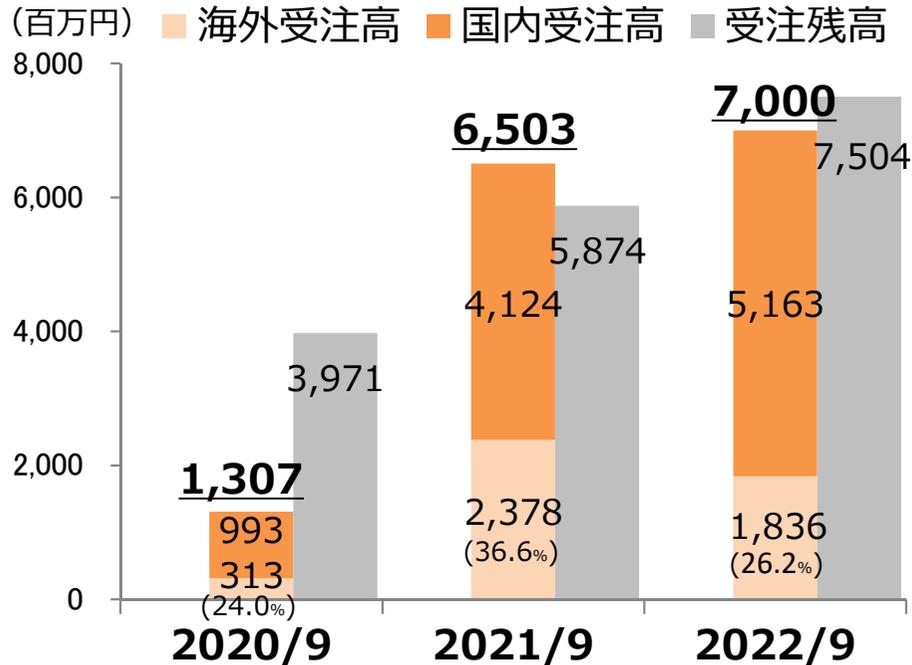


- ✓ 売上高減少の中、あさひ工場の操業開始による減価償却費（94百万円）や諸経費の増加が影響
- ✓ 2021年末に実施した価格改定の効果により、原材料価格高騰の影響を抑制
- ✓ 前期設備投資額の内容は、主に「あさひ工場」の建設仮勘定（8億80百万円）

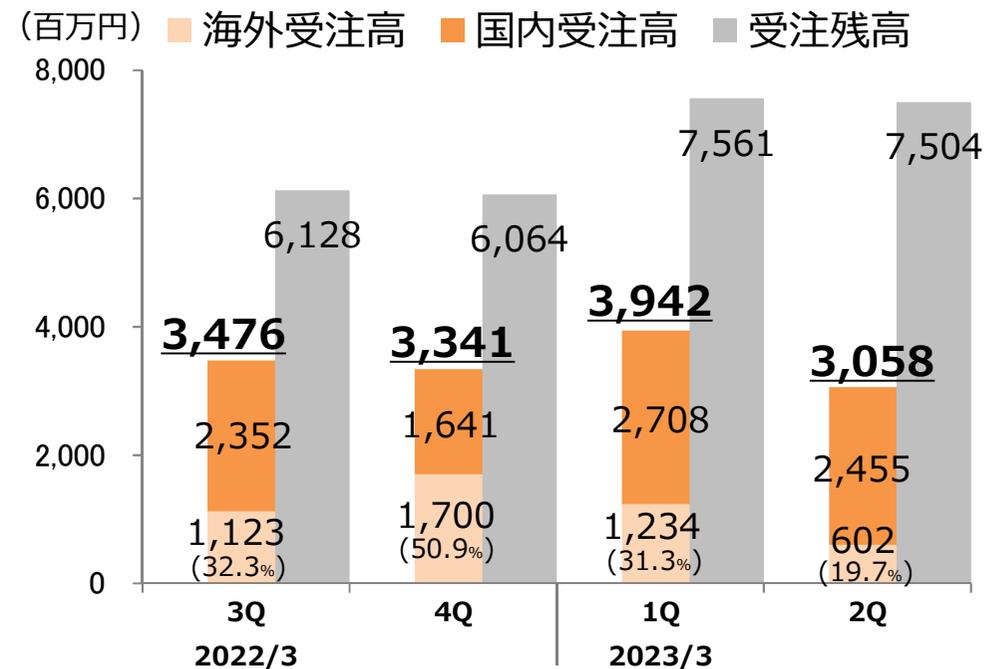
■ 工作機械事業の状況

受注高・受注残高の推移

第2四半期累計期間



四半期会計期間



決算のポイント

- ✓ 人手不足や人件費高騰に対応するための自動化ニーズが継続
- ✓ 部品調達難が生産に影響し、受注残高が増加
- ✓ 第2四半期の受注減は、海外における在庫調整が影響

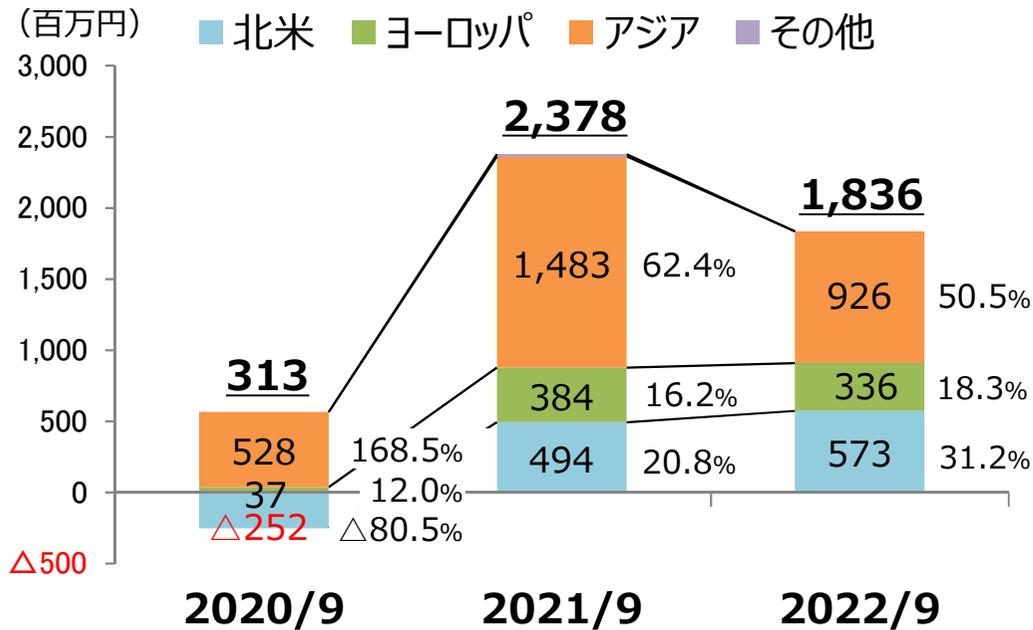
取り組み実績

- ✓ 自動化システムのソリューション提案の推進
- ✓ あさひ工場でのプライベートショー開催や国内外の展示会への積極的な出展

■ 工作機械事業の状況

海外受注高の推移

地域別



主要な国別

(単位:百万円)

	2020/9	2021/9	2022/9
アメリカ	△297 (-)	377 (-)	476 (+26.2%)
ドイツ	16 (△53.0%)	244 (+1,366.5%)	296 (+21.0%)
中国	160 (△55.1%)	624 (+288.7%)	284 (△54.3%)
タイ	263 (+53.4%)	343 (+30.1%)	241 (△29.5%)
ベトナム	54 (+90.9%)	312 (+471.4%)	176 (△43.6%)

※ %表示は対前年同期増減率

決算のポイント

- ✓ アメリカの需要が堅調であり、IMTS2022（9月シカゴ）も盛況
- ✓ 中国で実施されたロックダウンの影響により、中国で受注が減少

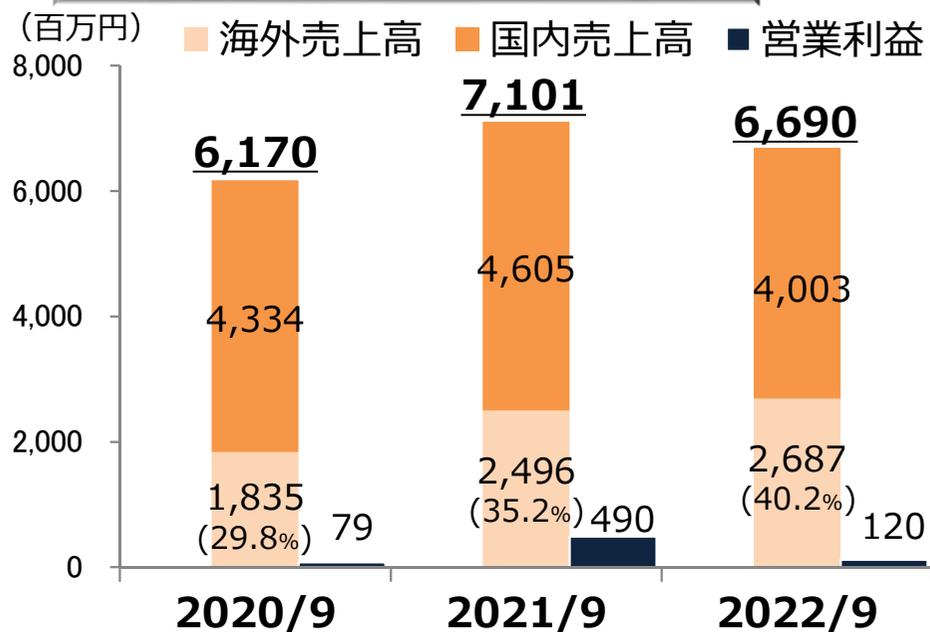
取り組み実績

- ✓ アメリカ子会社にテクニカルセンターを開設
- ✓ IMTS2022で人手不足解消を目的とした自動化・ターンキー提案
- ✓ ユーザーニーズのトレンド情報の収集及び社内共有の強化

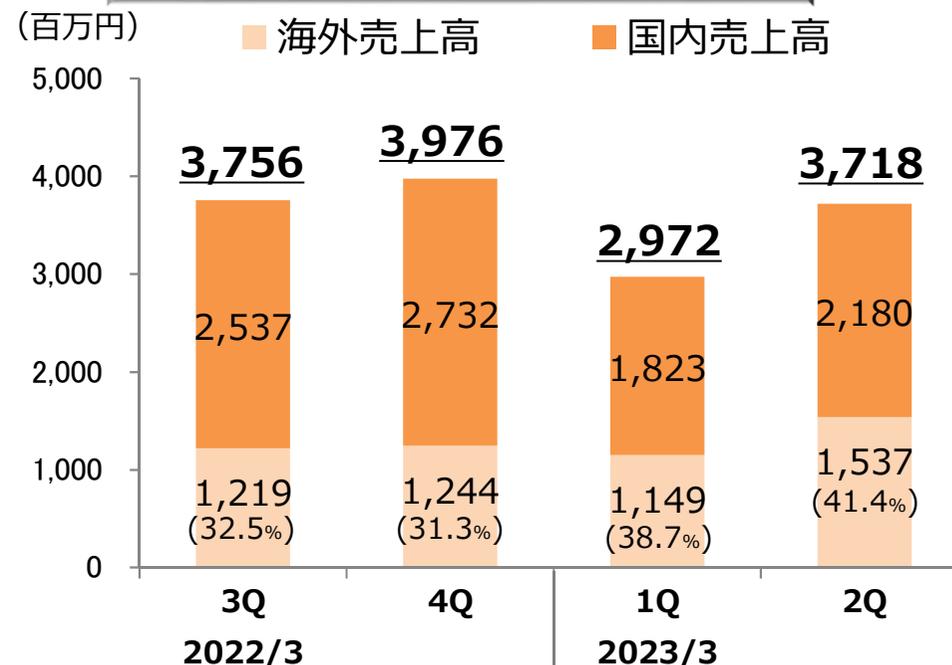
■ 工作機械事業の状況

売上高・営業利益の推移

第2四半期累計期間



四半期会計期間



決算のポイント

- ✓ 部品調達難や原材料価格高騰が継続
- ✓ 海外の景気回復により、海外売上高・比率が増加

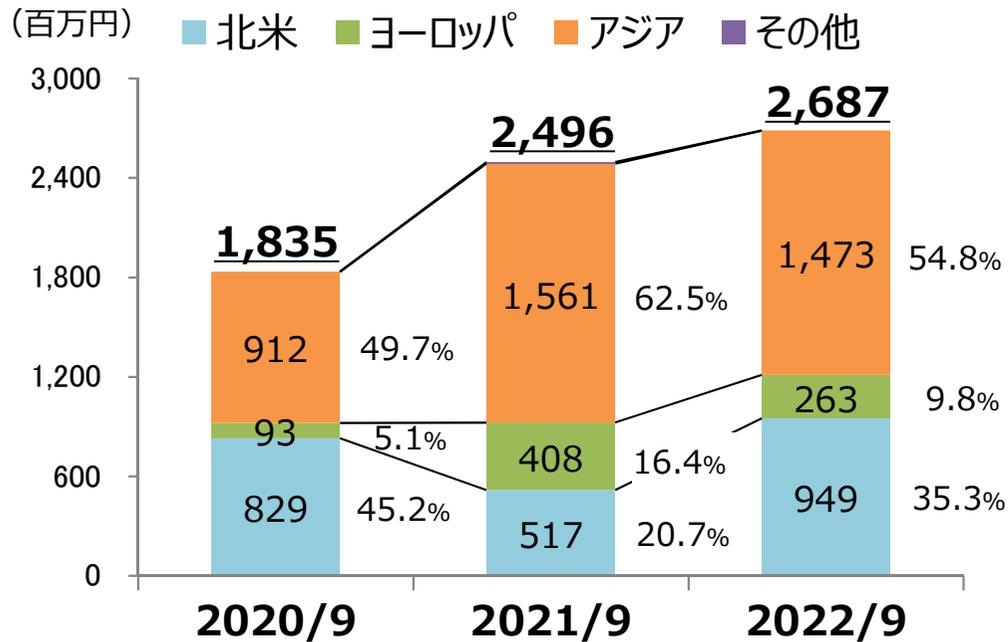
取り組み実績

- ✓ 部品調達難に対応し、先行手配や代替品活用等の継続
- ✓ 2021年末に引き続き、第2四半期に機械本体やTAKAMAZローダーシステム等の販売価格の改定を実施

■ 工作機械事業の状況

海外売上高の推移

地域別



主要な国別

(単位:百万円)

	2020/9	2021/9	2022/9
アメリカ	710 (△34.0%)	320 (△54.9%)	911 (+184.7%)
中国	229 (△82.8%)	656 (+186.0%)	581 (△11.4%)
タイ	278 (△53.0%)	456 (+64.1%)	335 (△26.5%)
インドネシア	171 (△9.0%)	105 (△38.4%)	118 (+12.0%)
ベトナム	87 (△25.0%)	181 (+106.9%)	104 (△42.7%)

※ %表示は対前年同期増減率

決算のポイント

- ✓ アメリカで大口ユーザ向けの出荷が複数あり、大幅に増加
- ✓ ユーザ都合による出荷延期や受注低迷により、アジアで減少
- ✓ ヨーロッパ向けでは、部品の納品遅れ等が影響し減少

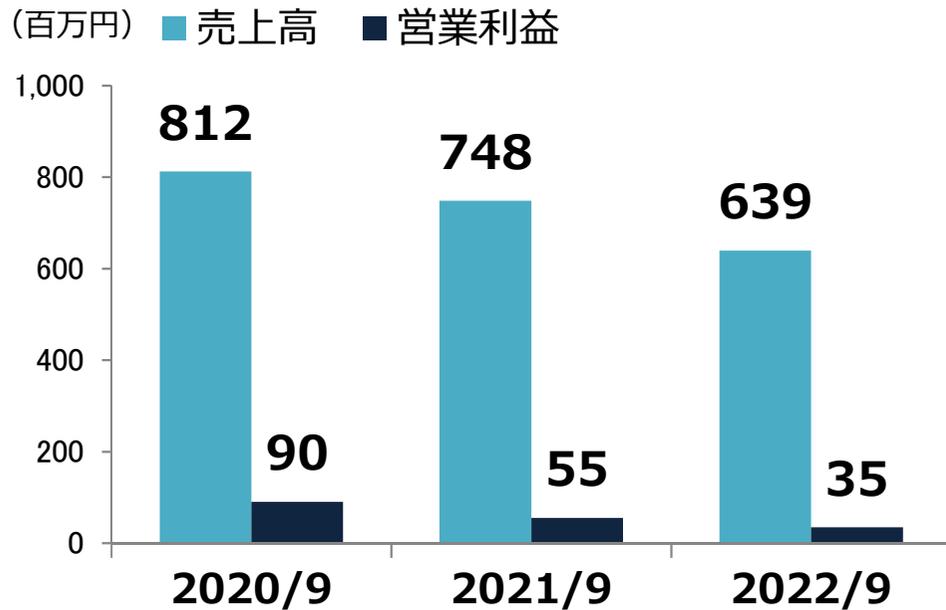
取り組み実績

- ✓ 各国の販売経路の整備、現地ディーラとの協業
- ✓ WEB等による積極的な教育の実施
- ✓ 各国に適した付加価値製品の提供

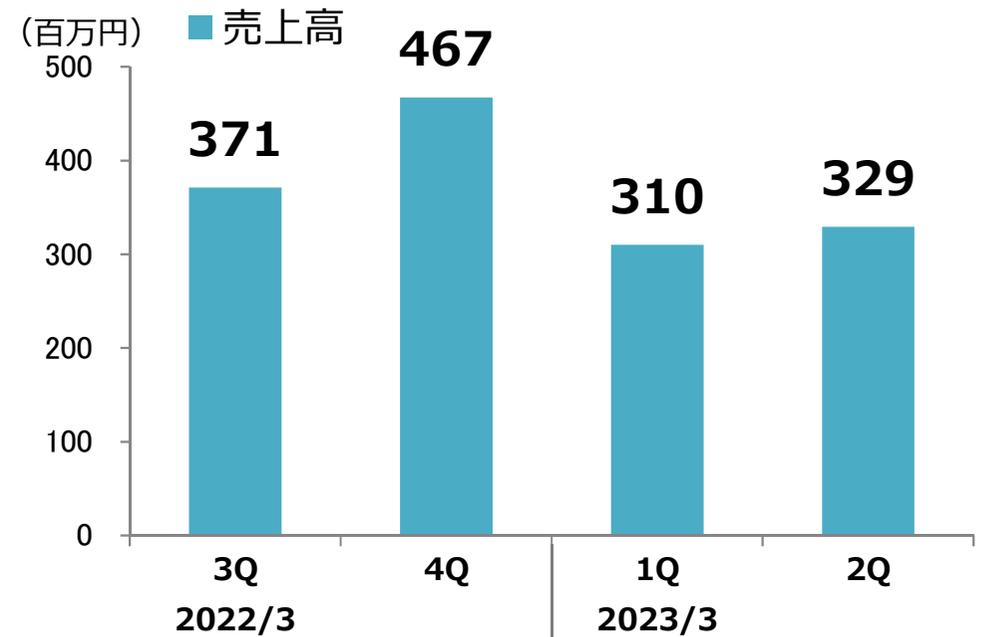
I T 関連製造装置事業の状況

売上高・営業利益の推移

第2四半期累計期間



四半期会計期間



決算のポイント

- ✓ 部品調達難により、一部製品の生産に影響があり、売上が減少
- ✓ 材料費高騰により、利益が減少

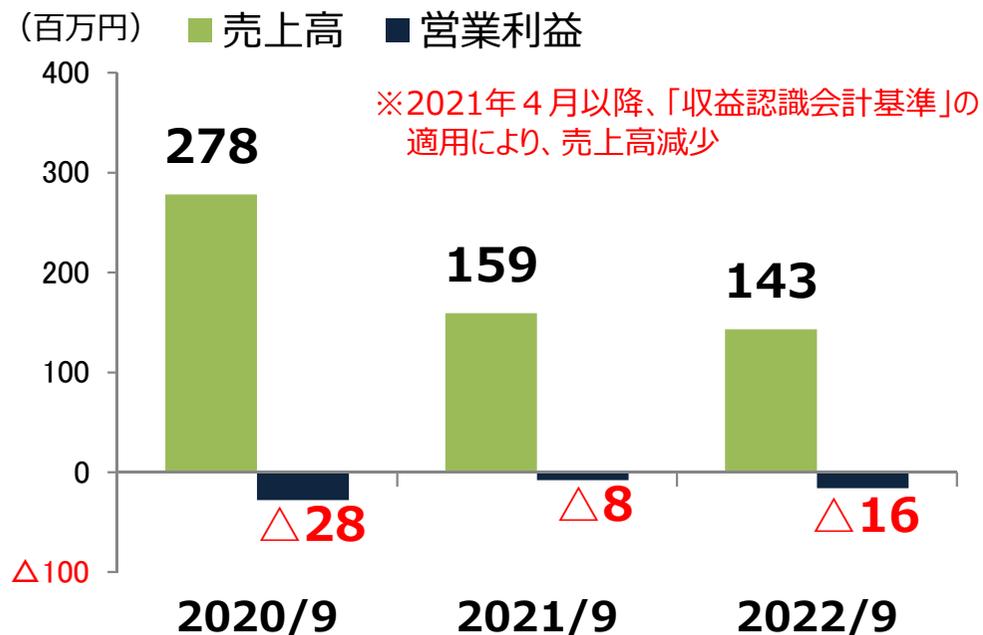
取り組み実績

- ✓ 積極的な営業活動の成果により、新規案件獲得
- ✓ タイムリーな部品調達とアウトソーシングの活用

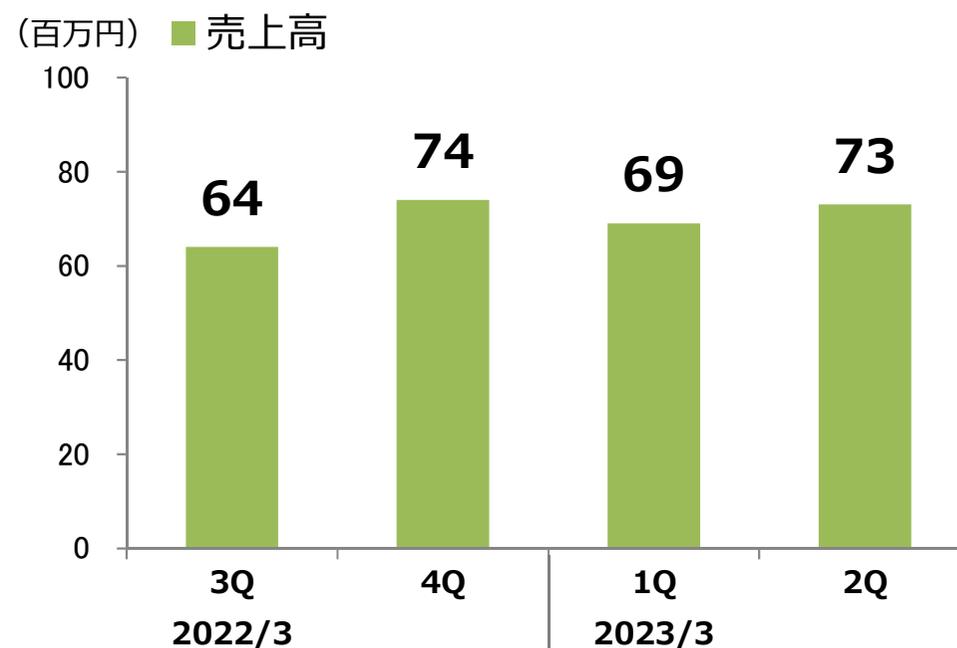
自動車部品加工事業の状況

売上高・営業利益の推移

第2四半期累計期間



四半期会計期間



決算のポイント

- ✓ 取引先の在庫調整や部品不足等による生産調整の影響を受け、売上高・利益ともに減少

取り組み実績

- ✓ 新規受注や既存生産品の数量拡大に向けた積極的な営業活動
- ✓ 数量変動に対する最適生産の実施

2

事業戦略

工作機械業界の動向

(出典：日本工作機械工業会)



- ✓ 2021年2月には単月受注総額が1,000億円を超え、その後も増加傾向が継続
- ✓ ウクライナ情勢、中国の景気減速とゼロコロナ政策などに注視が必要
- ✓ 人手不足や人件費高騰に対応するための自動化や工程短縮のニーズが継続

業績予想

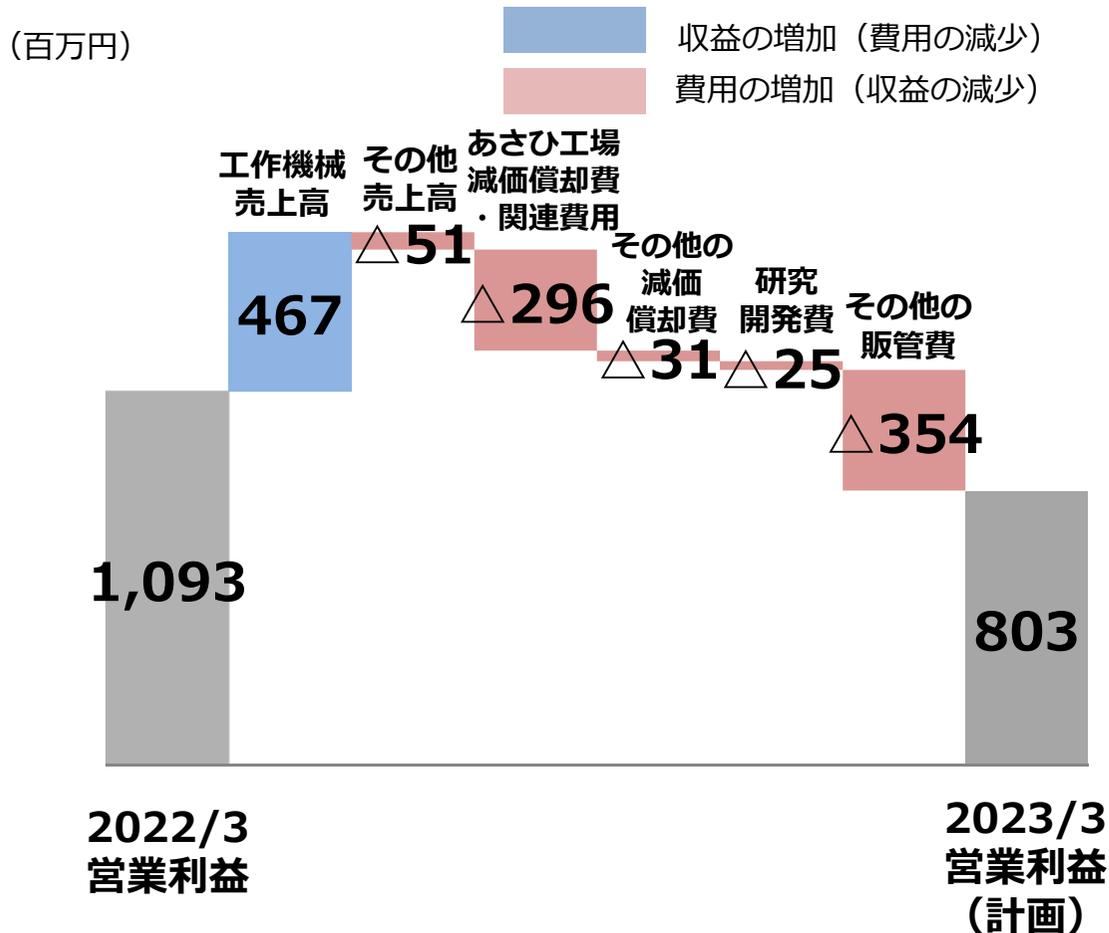
(単位：百万円)

	2022/3	2023/3			
		当初予想	修正予想	対前期比	当初予想比
受注高	13,321	13,650	14,174	+6.4%	+3.8%
売上高	16,720	18,735	17,610	+5.3%	△6.0%
工作機械事業	14,834	16,741	15,968	+7.6%	△4.6%
I T 関連製造装置事業	1,587	1,650	1,319	△16.9%	△20.0%
自動車部品加工事業	298	343	321	+7.9%	△6.4%
営業利益	1,093	938	803	△26.5%	△14.3%
営業利益率	6.5%	5.0%	4.6%	△2.0ポイント	△0.4ポイント
経常利益	1,180	1,044	932	△21.0%	△10.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益	795	790	703	△11.5%	△10.9%
1株当たり当期純利益 (円)	73.03	73.06	64.98	△11.0%	△11.1%

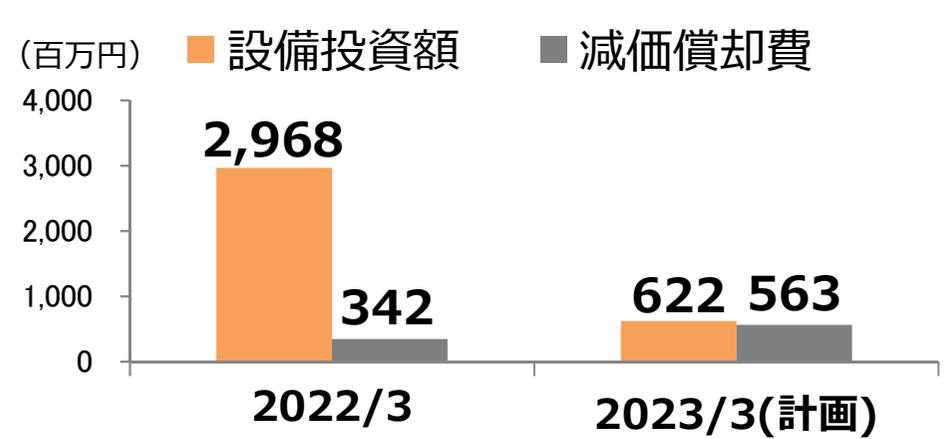
- ✓ 部品調達難や原材料価格の高騰の影響によって、上期実績が当初計画を下回ったことを鑑み、通期業績予想を下方修正
- ✓ 今年度の4つの事業戦略に取り組み、下期の挽回をはかる
- ✓ I T 関連製造装置事業の修正見通しは、部品不足が大きく影響

業績予想

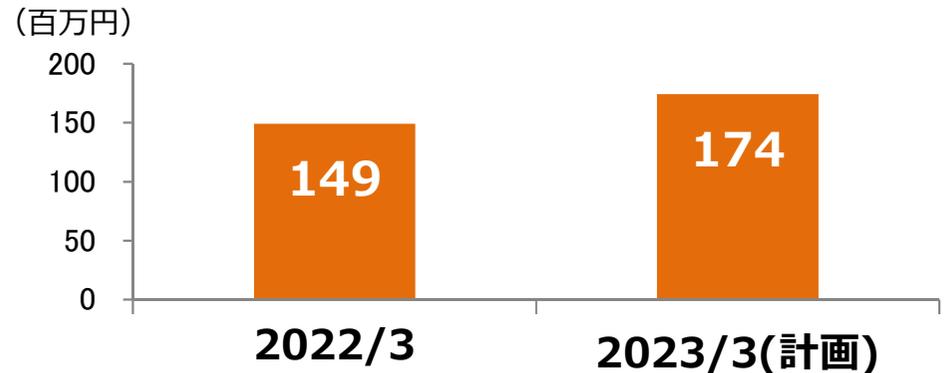
営業利益増減分析



設備投資額・減価償却費



研究開発費

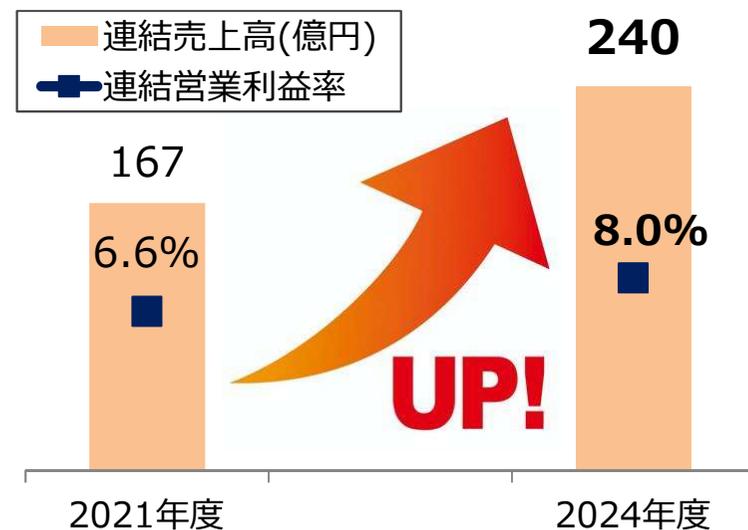
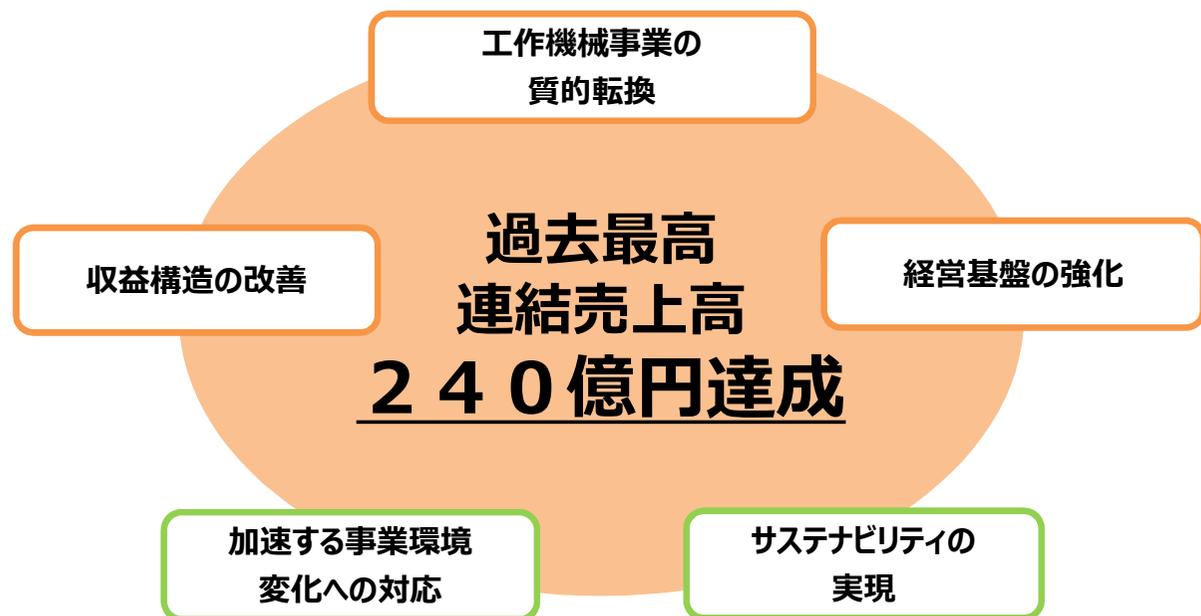


- ✓ 原材料価格の高騰によるコスト増加やあさひ工場関連の費用が利益減少に影響
- ✓ あさひ工場を最大限活用できる生産能力の確保に向け、本社工場の継続的な設備投資を実施
- ✓ 第2四半期に実施した価格改定の効果は、そのほとんどが来期に発現の見通し

■ チェンジ・チャレンジ

中期計画 2024

チェンジ！ チャレンジ！ 2024！
当たり前を「変える」、新しいことに「挑戦する」



2022年度 会社方針

**「チェンジ」「チャレンジ」に取り組み、
全体最適な経営基盤づくりと経営目標の必達をはかる**

■ 主要戦略

チェンジ・
チャレンジ

1. 受注高の拡大

更なる成長に向け、全部門一体となって受注獲得

- 変化する市場への対応と開拓

- ・主力受注先の自動車業界以外の業種やEVを含めた新しい加工分野の開拓

**JIMTOF
2022**

第31回 日本国際工作機械見本市
2022年11月8日(火) ▶ 13日(日)



- ✓ 省人化、カーボンニュートラル、DXをテーマに「人手不足解消」に対するソリューションを提案
- ✓ 小型かつ省エネながらも高生産効率を実現する新機種を含めた6機種を展示



主要戦略

チェンジ・
チャレンジ

お客様のニーズを満たす

- ✓ 高い生産性実現
- ✓ カーボンニュートラル・SDGs
- ✓ 人手不足解消

新製品を投入

NEW XWG-3

カーボンニュートラルに貢献

- ✓ 排熱として放出していた電気エネルギーを装置の電源として再利用できる電源回生方式の採用により省エネ効果アップ
- ✓ 動作高速化 **+33%** (従来機比較)



NEW XTs-6

業界最小のコンパクト性

- ✓ 従来機より更なる小型化を追求、業界クラス最小のフロアスペース達成
- ✓ 安定した加工精度により高い生産性を実現
- ✓ CO₂排出量年間 **245kg-CO₂削減** (従来機比較)



主要戦略

チェンジ・
チャレンジ

● 新しい営業手法の推進

- ・ホームページやSNS等を利用した製品・技術PRの継続

ホームページ



SNS



公式YouTubeチャンネル



公式Instagram



公式facebook

- ・多品種少量向け省人化装置「ServoRot」システムの販促

ServoRot



- ✓ 工作機械製品と組み合わせる自動化システム
- ✓ 昼夜を問わず無人運転を実現
- ✓ 安定供給・多台数管理も可能

お客様の生産効率の
大幅アップに寄与

● 新組織による事業体制の強化

- ・FAソリューション推進室による自動化やロボットなどの新たな市場の開拓

2. 新しい挑戦による利益拡大

変化と挑戦を意識した、中長期的視野での収益力強化

● 本社工場の生産レイアウト見直し、設備投資

付帯作業低減

- ✓ 生産レイアウト見直しによる工程間の物と人の移動のムダ削減

品質向上

- ✓ 部品洗浄装置、自動主軸ランニング装置改造、自動主軸ランニング装置増設による省人化

各工場の役割明確化

- ✓ 精密組立室において「組立エリア」と「主軸ランニングエリア」を隔てることで、異物混入リスクを低減
- ✓ 本社工場とあさひ工場における役割の明確化に伴い、役割に合わせた機能強化

● 次世代ITシステムの構築

- ✓ 物流システム
- ✓ 財務会計/人事給与システム
- ✓ 基幹システム

■ 主要戦略

チェンジ・
チャレンジ

3. 環境変化への対応

会社が目指す未来に向けて、チェンジ・チャレンジの方向性を決定

● 創業90周年(2038年)に向けた社内プロジェクト

- ・トップ層（経営幹部）とミドルボトム層（中堅若手社員）でそれぞれプロジェクトチームを立ち上げ、会社の未来について議論

未来プロジェクト・チーム（経営幹部）

- ✓ 創業90周年（2038年）に向け当社の進むべき方向性を検討
- ✓ 全社最適をベースに、部門の枠を超えた強力なコミットメント



未来推進チーム（中堅若手社員）

- ✓ 若手社員の意見を吸い上げる場としてモチベーションアップを目指す
- ✓ 全社最適をベースに新しい業務スタイルを検討



社長と未来推進チームの
ランチミーティングの様子



未来推進チームの議論の様子

■ 主要戦略

チェンジ・
チャレンジ

4. 働きやすく、働きがいのある

職場づくりと人材育成

社員一人ひとりが個性と能力を発揮できる場の実現

● 社員エンゲージメントの向上

- ✓ 家族工場見学会（ファミリーデー）開催
8月20日、あさひ工場にてファミリーデー実施（268名が参加）



- ✓ 福利厚生のアウトソーシングサービス活用

- 働きやすさを追求した本社機能強化の推進
- 現場経験の浅い若手社員の教育（製造部）

サステナビリティの実現

チェンジ・
チャレンジ

**企業価値の源泉であるモノづくりによって、
持続可能な社会の実現に貢献**

カーボンニュートラルに貢献する新製品の開発

電源回生方式

省エネルギーモード

アイドルストップ機能

従来を上回る大幅な省エネルギーの
実現！

カーポート型太陽光発電設備の導入



✓ CO2排出量14%削減
✓ 北陸初



サステナビリティレポートのご紹介

今年度より、当社ホームページにてサステナビリティレポートを公開しています。

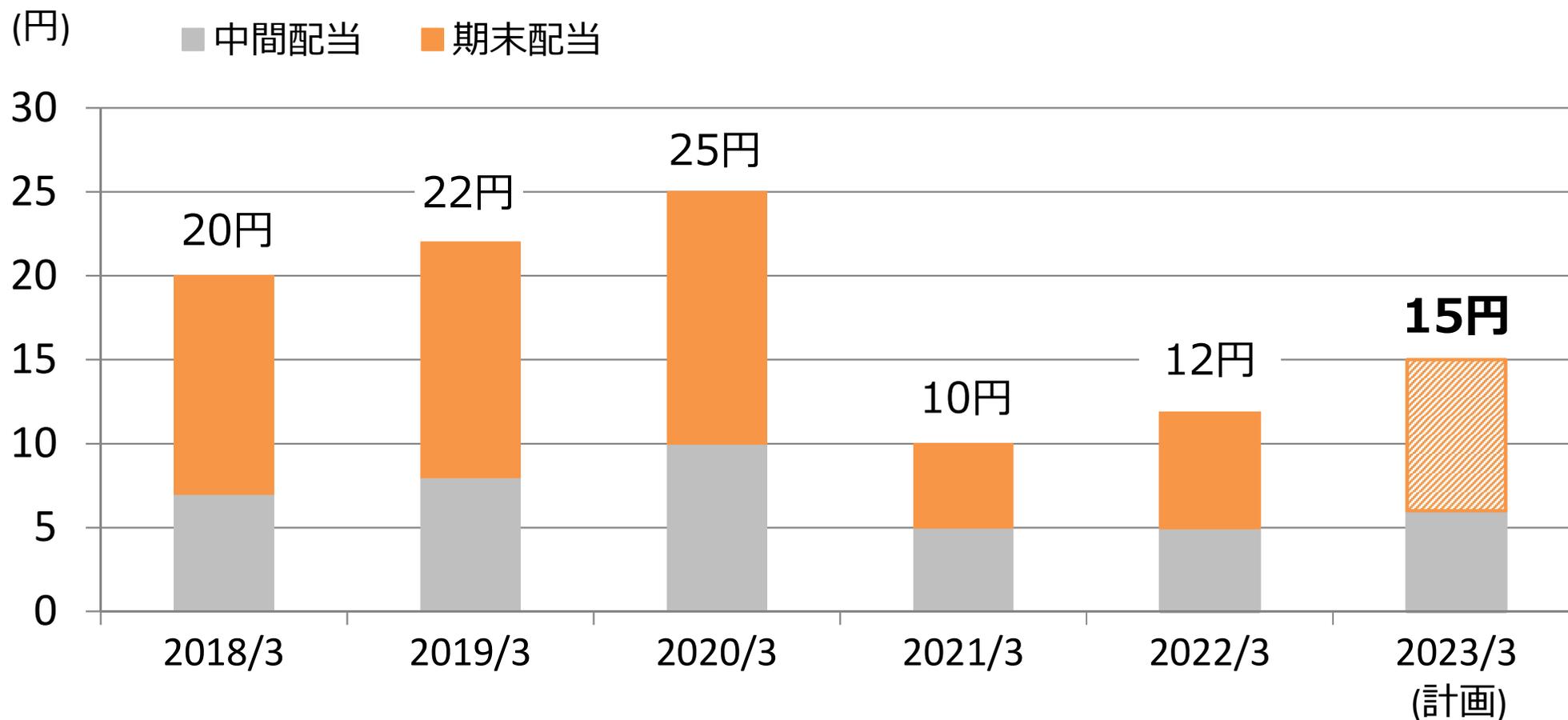


当社のサステナビリティの取組み、社長メッセージ、データ集等を掲載しています。ぜひご覧ください！

株主還元

● 配当政策

- ✓ 中間配当 6 円実施、期末配当 9 円予定
- ✓ 前期12円に対し、3円の増配となる年間15円を計画



(参考) 会社概要

会社概要



会社名	高松機械工業株式会社
設立年月日	1961年7月1日
本社所在地	石川県白山市旭丘1-8
資本金	18億35百万円
発行済株式総数	1,102万株
正社員数	連結：618名 単体：541名（2022年9月末現在）
上場取引所	東京証券取引所スタンダード市場（証券コード 6155）

事業内容

工作機械事業 (148億34百万円)

- CNC旋盤、周辺装置の製造、販売、サービス・メンテナンス

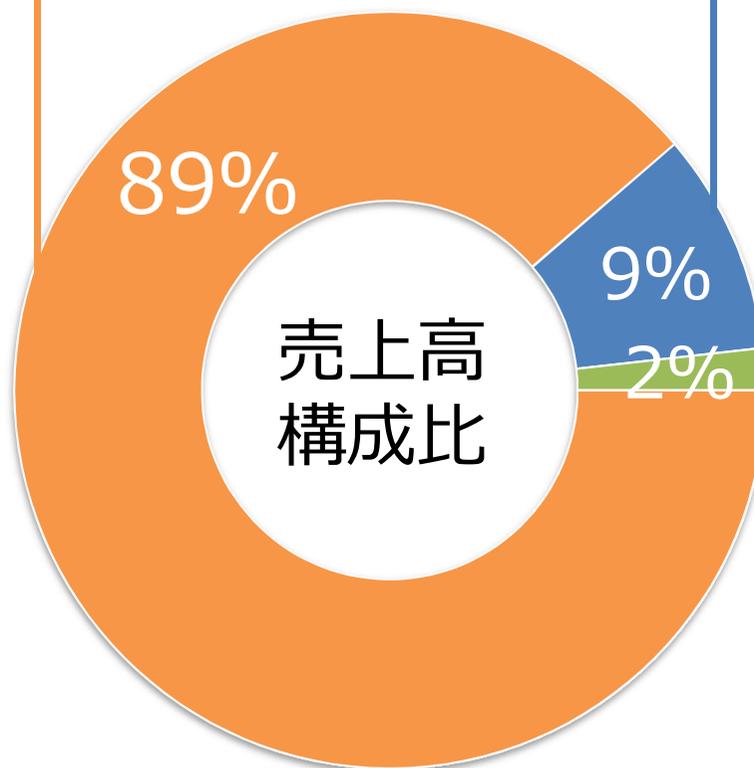


- コレットチャックの製造、販売



I T 関連製造 装置事業 (15億87百万円)

液晶基板や半導体
などに関する
製造装置の製造



自動車部品 加工事業 (2億98百万円)

自社製旋盤による
自動車部品の加工



■ 営業拠点・グループ会社

国内営業拠点：9か所

関東、大阪、名古屋、
浜松、厚木、東北、
北陸、信越、広島

国内グループ会社：2社

- タカマツエマグ
- FTJ

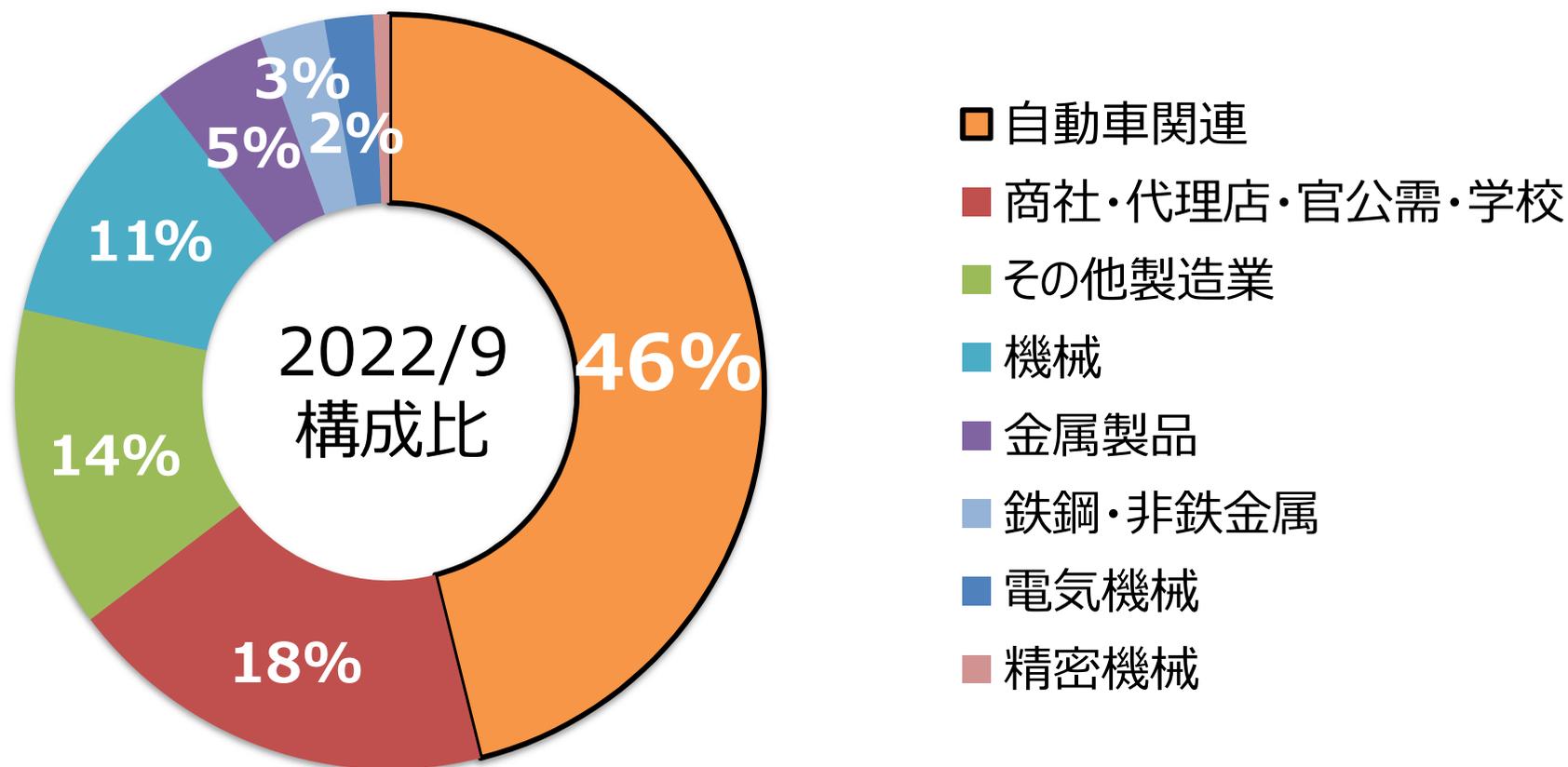
海外グループ会社：9社

- TMU (アメリカ)
- TME (ドイツ)
- TMT (タイ)
- TPMP (タイ)
- 喜志高松 (中国)
- 友嘉高松 (中国)
- PTTI (インドネシア)
- TMVN (ベトナム)
- TMMX (メキシコ)

国内では、自動車産業が盛んな地域での営業拠点の開設
海外では、ユーザの海外進出に対応すべくグループ会社の設立

迅速かつ適切なサービス・メンテナンスの提供

業種別受注先の状況



➤ これまでの主な納入先

トヨタ自動車 ・ SUBARU ・ 日産自動車
デンソー ・ マツダ ・ ヤマハ ・ ダイハツ ・ 本田技研
三菱電機 ・ LIXIL ・ 東京計器

■ 当社製品による加工例

自動車関連



- ✓ 自動車のエンジンやミッション、足回りの部品など、幅広く使用される
- ✓ EV（電気自動車）・ハイブリッドカーの部品にも使用される

その他加工事例

- 建設機械
- バイク
- 医療機器
- 航空機関連
- 家電製品

新しい市場・新しい加工品
分野の開拓にも注力

■ 自動化技術

● 豊富なノウハウと製品群

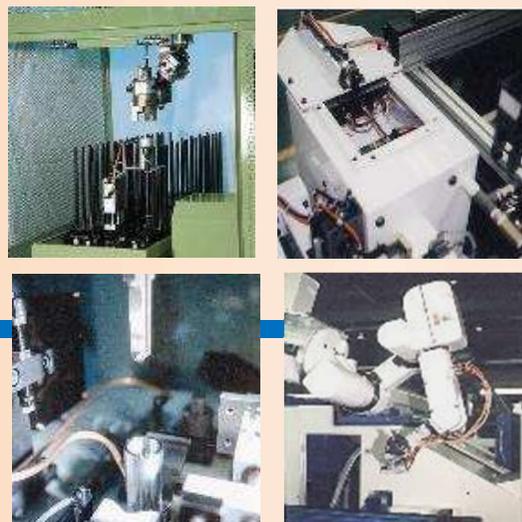
- 早くから自動化技術に取り組み、実績を積み上げ
- 自動化技術を組み合わせお客様に最適の生産ラインを提供

● 設計～製造まで一貫した生産体制

自動化装置・システムを自社で開発



当社CNC旋盤



自動化装置群



お客様仕様の生産ライン

多様な製品ラインナップ

ユーザーニーズに応える製品開発

高精度・高品質を維持しつつ生産性の向上を実現

省エネ・省スペース

環境負荷の低減

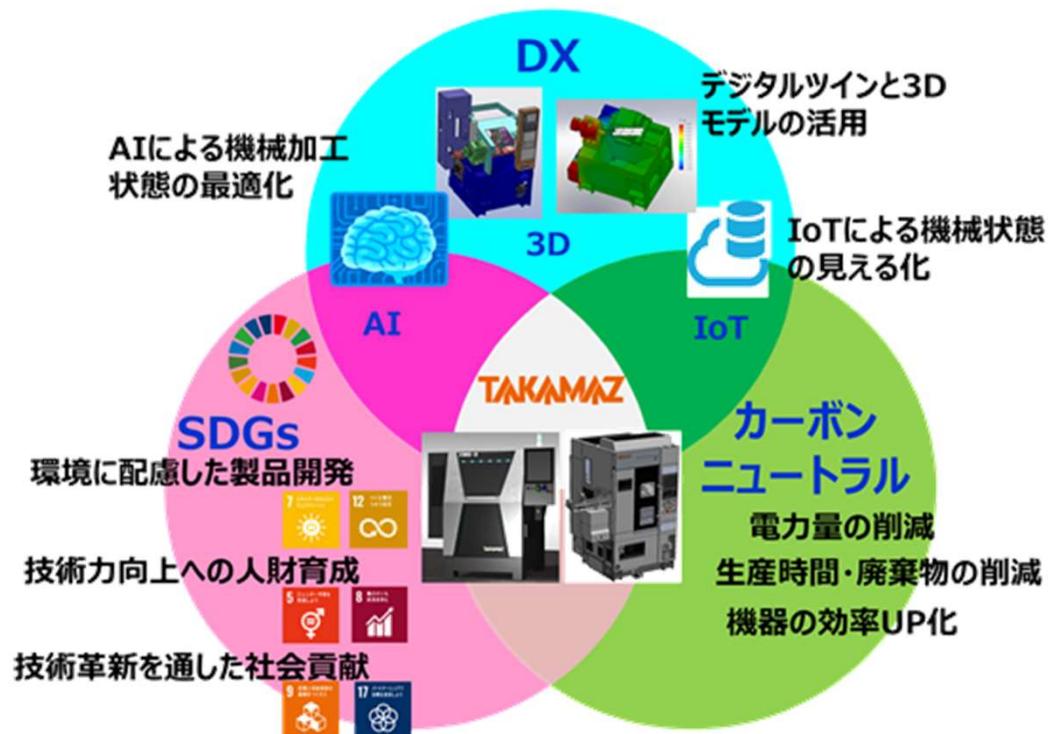
機能を特化した
戦略機種

新製品開発の取り組み

「DX」・「SDGs」・「カーボンニュートラル」の
3つのキーワードで
新製品開発を進めています。



11月に開催したJIMTOF2022では
注目の製品を多数展示



営業体制

提案型営業

営業員全員がセールスエンジニア

技術的専門知識を備えた営業員が
加工ラインや加工方法をその場で提案



地域密着型営業

国内・海外に広がるネットワーク

各地域のニーズに対応

ユーザからの
リピート受注率 90%

TAKAMAZ

<https://www.takamaz.co.jp>

